

びわ湖トラスト事務局便り

第3号 年末年始号



2009年12月25日発行 NPO法人びわ湖トラスト事務局
〒520-1621 滋賀県高島市今津町今津448-48

あけましておめでとうございます

びわ湖を立体的にみつめる大切さを

理事長 山田能裕

「特定非営利活動法人・びわ湖トラスト」では、美しいびわ湖を求めて活動を展開。その成果が広範囲の人々によろしく認識されるようになりました。改めてご支援くださった皆様に心からお礼を申し上げますと共に、昨年に増しご支援の程心からお願い申し上げます。

心ない人達の手になる汚されたびわ湖の実態は、それが公開されることによって、人々に往年の美しいびわ湖への回帰を促し、そのための努力をびわ湖トラストは昨年以上に重ね、その存在価値を高めることに更に邁進いたします。

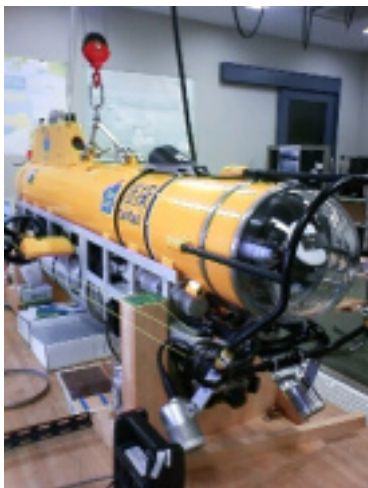
今年も実施致します湖底、湖中の調査も新たな発見があるかも知れません。また、びわ湖を支える周辺の山々にも目を向け、立体的にびわ湖を見ることも今年の計画の一つであることを申し添え、新年のご挨拶といたします。



NEWS!!

淡探はっけん号湖底調査実施

2009年12月24日～27日 びわ湖トラストは、淡探はっけん号を用いたびわ湖の調査を応援しています。今回は新にびわ湖の湖底ゴミの様子の記録を行っています。西日本高速道路エリアパートナーズ倶楽部の暖かな支援で実施されています。



おかげさまで

西日本高速道路
サービス・ホールディングス(株)
(株)京阪レストラン
(株)グランビスタホテル&リゾート
近畿日本鉄道(株)
(株)叶匠壽庵

西日本高速道路エリアパートナーズ倶楽部の社会貢献活動とは

NEXCO西日本グループでは、「私たちはお客様満足度を高め、地域の発展に寄与し、社会に貢献する企業グループをめざします」というグループ理念のもと、「人と地域と社会を未来へ“つなぐ”こと」をグループの存在意義と考え、“企業の社会的責任(CSR)”を事業活動の基軸にして次の4つのアプローチで社会貢献活動に取り組んでいます。

- | | |
|----------|--|
| 基本的活動 | 従来からの事業・業務のやり方をCSRの観点から再認識し、基盤として推進するもの |
| 新たな社会的事業 | 社会が抱える課題について、グループとして培ったノウハウや資産を活用した新事業により解決を図るもの |
| 社会貢献活動 | 地域社会を構成する良き企業市民として、グループの資産を活用しながら社会貢献活動を行うもの |
| 社会支援活動 | 私たちが直接活動するよりも効果的に成果を上げることができる活動団体に資金面等で支援するもの |

こんなびわ湖に誰がした～！

つづらお崎着ゴミ回収分別調査 2009年11月21日

本部場所 尾上漁港



この悲惨さを多くの人に伝えねば・・・ びわ湖トラスト理事 本部長 小川 隆



漁船が初冬の冷たい風を切って勢いよく尾上の港を出ると目の前に葛籠尾崎その左手に竹生島の影が見える。奥琵琶湖のこの美しい風景は古来歌や詩に読まれて来た。そして岬が湖に落ち込む辺りには縄文・弥生時代の遺跡が今も眠っており、引き上げられた数々の壺や皿は3千余年を経て、尾上の湖底遺跡資料館に陳列されている。その日、6隻の船に乗って葛籠尾崎へゴミの回収に向かったのは120余名。OBC高島の野球選手達や滋賀大学、県立大学等の学生さん、びわ湖トラストのメンバー、地元の漁師さんや湖北町日赤奉仕団の方々も応援に駆けつけてくれた。湖岸に漂着した大型ゴミ。渚に点々と続くのは冷蔵庫、食器乾燥機、掃除機、炊飯器にパソコン、バッテリーにタイヤの数々、子ども用カート、ビニールシート。タイヤに羽が生えて飛んで来たのでは無い。冷蔵庫が家を抜け出しここまで来ない。3時間足らずで回収したゴミの総量は2784kg。悲惨であった。たばこや空き缶のポイ捨てが、この現状の始まりだと思う。私達は声を大きくしてこの有様を多くの人々へ県内県外の人々へ伝えなければならない。そして、びわ湖トラストの大切な活動として、回収運動を継続していきたい。「悲惨な湖底遺跡」を残さないために。

びわ湖を守りつなぐことを誓う

湖北町長 南部厚志

9月から10月には、オオヒシクイやコハクチョウを中心に多くの水鳥が飛来するびわ湖。今年も沢山の鳥たちが来てくれました。鳥たちが好む環境を一年間守れたんだと感じ、ほっとする季節であります。びわ湖の中でも、最も美しいところをお預かりしているのが、湖北町です。私たちの大切な役割のひとつが、美しいびわ湖を未来につないでいく事だと思っています。しかし、湖岸を歩くと目に付くのは、明らかに不法投棄された大型ゴミや、ポイ捨てされたゴミ、川を流れてたどり着いたと思われるゴミ、たばこの吸い殻、ゴミ、ゴミ、ゴミ・・・

人の心が社会を動かす時代だと思えます。つづらお崎のゴミ回収に参加して、びわ湖を見つめる人々の心に触れる事が出来ました。ご参加いただきましたみなさん、びわ湖トラストの関係者のみなさん、ご協力をいただきましたみなさんに心から感謝申し上げます。

そして、改めてびわ湖を守りつないでいく誓いとしたいと思います。



毎日放送VOICE 憤懣本舗より

人の視線のとどかないところは何をしてもいいのか！？

京都府宇治市 岩崎功志

びわ湖トラストの一会員として、つづらお崎周辺の漂着ゴミ回収に参加させていただきありがとうございました。また当日は班の取りまとめ役までさせていただき大変良い経験となりました。

現場の惨状は予め想像していたものをはるかに超えるいることに驚きとともに、「人の視線の届かないところでは何をしても構わない」という良識を欠いた人々が自然の恵み豊かなこの日本に相当数いることに、同じ国民として一種の情けなさや憤りの折り重なった感情を抱きました。逆に参加された会員や有志の方々が大半は当日初対面であるにもかかわらず、全員一丸となって懸命に作業を行いほんの数時間で結構な成果が出せるのだなということを実感し充足感を味わえた一日でした。特に同じ班の方々には不慣れな頼りない私の指示のもとに、文句一つなくてきばきと手際よく作業を進めていただいたことを、ここに改めて御礼申し上げます。

今後もびわ湖を守るトラストの活動に積極的に参加するとともに、一人でも多くの人々にびわ湖の抱える問題に関心を持ってもらうよう微力ながら広報活動等を続けていきたいと思っておりますのでよろしく申し上げます。



大型ゴミの多さに驚き・・・ 京都文教大学 谷川信晃

私は今回初めて琵琶湖トラストの活動に参加させて頂きました。

ゴミを拾うことは大学のボランティアサークルでもやっていた。しかしこれはタバコの吸い殻が主でした。だから今回、冷蔵庫やテレビといった粗大ゴミもあったのでとても驚きました。

今回の琵琶湖トラストの活動は友達に初めて聞きました。また機会があれば参加させて頂きたいと思います。

現況体験！今後の広報に役立てたい

滋賀県立大学 小宮一晃

この度は素晴らしい企画に参加させていただきありがとうございました。日々環境問題に取り組んでおられるびわ湖トラスト様の活動に参加させていただき、大変光栄に思う次第でございます。今回参加させていただいた滋賀県立大学のメンバーは環境サークルに所属し、普段の活動として彦根市内の川沿いのごみ拾いを行っております。定期的に行うごみ拾いでもそれなりの量になるのですが、長い間放置されてきた地はやはり大量のごみが出てくるのが現状だということを改めて思い知らされました。と同時に、積極的に環境啓発を行い、人々の関心を集め、不法投棄やポイ捨てを少しでも減らすことがこういった現状を目の当たりにしている我々の務めであると感じました。今回学んだことは今後の活動に役立てていきたいと考えております。本当にありがとうございました。



目標を共有する市民と共に 希望はある

鳥取大学 橋本今日子

冷蔵庫からトイレ洗浄用ブラシまで多様なゴミが大量にある。これが自然の多様な命と美しさをつぶしている。それでも琵琶湖の北端の湖岸は美しい。おかげで楽しみながら気持ちよく、ゴミを回収することができた。目標を共有する市民と共に。希望はある。でも、ひと山こえたところの若狭湾岸には多数の原発があり、日々、大量の死の灰を生み出している。もし事故があれば、すべての努力が無になる。死の灰を回収することはできない。

つづらおゴミ回収調査フォトアルバム



受付開始と気合を入れる



オーバルさんの救命胴衣を着けて



私たちが班長です



1班のゴミ冷蔵庫など大型家電製品



2班の船はゴミの山 OBC高島



多数のドラム缶14本



パソコン・ブラウン管が浮く



冷蔵庫の計量



湖北町と高月町のトラック6台

事務局から

平成21年11月開催されたびわ湖トラスト総会には、多くのご出席をありがとうございます。22年度の事業では、淡探・はっけん号を用いたびわ湖の詳しい調査を継続することと、近畿圏を中心に広範囲に会員さんがおられることから、各地でミニ交流会を開催していくことが決まりました。「よし、呼んでやろう!」と言う方がおられましたら、事務局に気軽にご連絡ください。それから、びわ湖のゴミ調査も継続します。資金調達に各種補助金の申請をしているところです。また、環境保全リサイクルを推進するため「リユースパソコン運動」を開始するため、準備を始めました。「捨てる前に是非」一考。また、新しい年を迎えます。皆さんのそれぞれの夢がかないます様に。

びわ湖トラスト会員募集中

会費振込先ご案内：郵便振込口座番号への振込です

口座番号 00960-3-225824

個人会員(正・賛助)一口3,000円×()口=()円

団体会員(正・賛助)一口30,000円×()口=()円

事務局だよりやお知らせの希望配信方法 メール 郵送

メーリングリストへの登録 希望する 志望しない

メールアドレス 住所・氏名・電話番号を明記の上、右記のびわ湖トラストまでお送りください。

特定非営利活動法人びわ湖トラスト
〒520-1621

滋賀県高島市今津町今津448-48

TEL/FAX 0740-22-1033

E-mail: info@biwako-trust.com

http://www.biwako-trust.com/

淡探による湖底調査

平成21年12月25日～27日

滋賀県琵琶湖環境科学センターでは、自律型潜水ロボット「淡探（たんたん）」を用いた湖底調査を2002年から行っています。2008年以降は、滋賀県の財政改革の一環で調査費が削減された中で、環境省やNPO法人びわ湖トラストとの共同研究の形で調査を継続しています。

現在の大きな目的は、絶滅危惧種となっているイサザの生息に好適な環境条件を調べることです。過去7年間の調査結果を取りまとめた結果を、図に示しました。これによると、水温が12℃を越える水域では、イサザが観察されていません。また、水中の溶存酸素濃度が、4mg/L以下になると生きているイサザの数が激減することがわかってきました。特に、3mg/L以下になると、死亡しているイサザの数が増えてきます。

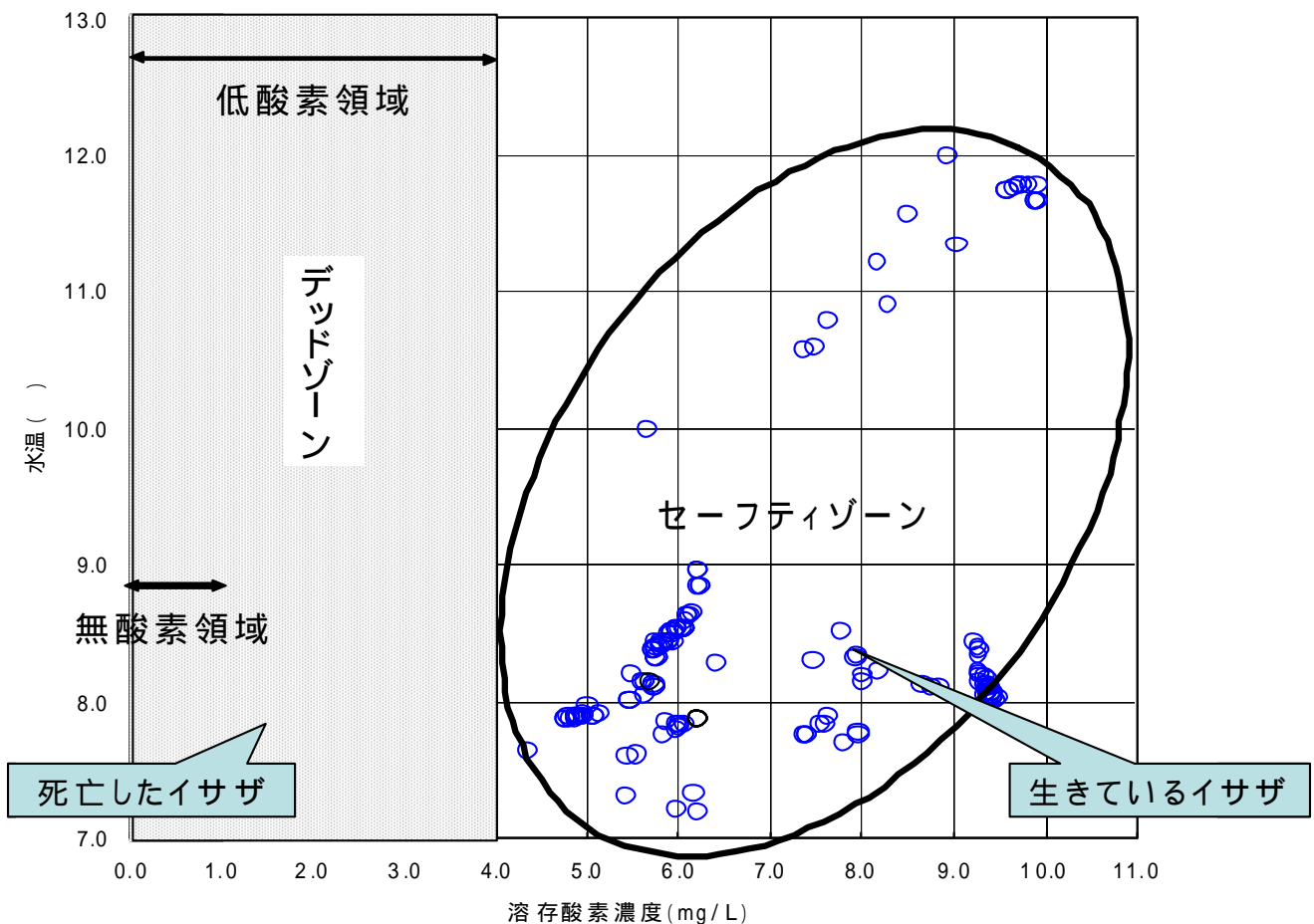
これらのことから、イサザが生息する上で望ましい環境は、水温が12℃以下、溶存酸素濃度が4mg/L以上であることがわかってきました。このことは、今後、地球温暖化によって水温が上昇し、湖底の低酸素水域（デッドゾーン）が拡大すれば、イサザの生息水域が減少する可能性があることを示しています。

2009年11月7日から11日にかけて、環境省の地球環境研究推進費を用いて、東京大学海洋研究所と共同調査を行いました。今年は、比較的早く溶存酸素濃度が低下し、湖底での魚の死亡が9月に見られましたが、10月の台風で湖底近くの水が攪拌され、酸素濃度が一時的に上昇しましたが、その後、再び低下しているのが特徴です。また、4日間の調査で、イサザが4匹しか見つかりませんでした。昨年12月の調査では、75匹見つかりましたので、大幅な減少です。

これらのデータを補完することを目的として、12月24日から27日にかけて、西日本高速道路サービス・ホールディングスの支援を受けて、NPO法人びわ湖トラストと琵琶湖環境科学センターの共同研究として、淡探の調査を行います。研究センターは、引き続き、イサザの生息域と生存数の確認をしますが、びわ湖トラストは、映像データから湖底に落ちているゴミの確認を行う予定です。



熊谷道夫



つづらお崎漂着ゴミ回収分別調査を終えて



湖北町と高月町にまたがる、つづらお岬の漂着ゴミ回収場所。シラサギ・アオサギがたくさん見られるところです。竹生島を鷓に占領され、ここに住み付いている、静かなところです。

湖北町長の南部町長さん、「全力投球でやろう！」との言葉に勇気を頂き、当日本部を尾上漁港朝日会館をお借りしました。また、高月町・湖北町の職員の皆さん、日赤奉仕団の皆さん、湖北まちづくり会社さん、湖北商工会さん。高島市から今年社会人野球全国大会に出場したOBC高島の若者達。近江八幡から立正佼成会の皆さん、遠くは兵庫県から泊まりがけでこられて汗をかいてくださった方々など、大変多くの方々にお世話になりました。

、 、 地区毎に分かれてゴミを回収しました。分別されたゴミの総重量は、2784.6キログラム。生活用品は何でもありました。

地区では家庭用電化製品が多く、地区ではドラム缶14本、布団等多量、地区でも冷蔵庫等回収されました。また、竹生島の鷓を追い払う銃による駆除の為、薬きょう（口紅のサンプルに似たもの）の残骸も本当にたくさんありました。3箇所の現場で上がったものを種類別に仕分けしたものが、左の表の通りです。

漂流してたどり着いたと思われるゴミ以外に、これはここまで持ってきてまとめて捨てたと思われるゴミが多くありました。その代表は工業用ドラム缶で、製造者名があります。しかし、その製造者が捨てたとは限らないので公表は差し控えますが、ロープでしばられ纏まって朽ちている状況でした。第2班に当たりましたが、中身があると危険と思い、いっしょに作業をしました。

壮絶な現場でしたが、参加者の皆さんが一様に、取りきれないから、来年もしましよと声をかけてくれます。「びわ湖は広いから、少くらい手をいれても、しょうがない」ではなく「少しでもしましよ」と言ってもらえる幸せな仲間ができたことに、希望をもって22年に備えていきます。（山内陽子）

	1班	2班	3班	小計
プラスチック・ビニール類	73.9	257.5	147.3	478.7
ゴム類	0.4	59.0	18.0	77.4
発泡スチロール	2.6	39.9	12.8	55.3
ガラス・陶器	26.6	120.3	106.1	253.0
金属	63.8	332.4	106.6	502.8
木材	2.4	15.0	0	17.4
電化製品	145.6	149.8	86.0	381.4
漁具	99.0	151.7	0	250.7
その他	143.2	556.8	67.9	767.9
合計	557.5	1682.4	544.7	2784.6

11月21日（土）に実施した葛籠尾崎～杉ノ鼻周辺の漂着ゴミ回収分別調査が紹介されています。

毎日放送VOIC E 懐恋本舗「静かな琵琶湖畔に大量の家電が。」
(2009/11/23放送)

http://www.mbs.jp/voice/special/200911/23_25281.shtml

インターネット新聞「JanJan」

琵琶湖・水鳥の里をゴミから守ろう(2009/11/25)

<http://www.news.janjan.jp/area/0911/0911240602/1.php>

